

令和4年度 自己評価・学校関係者評価の報告

学校法人光陵学園 あかね幼稚園

4 重 点 目 標	評価項目	評価指標及び評価結果							教師の主な意見	
		基 準	取組指標	取組 結果	基 準	成果指標	成 果 結 果	総括 評価		
研究発表に向けて、子ども主体の保育の展開を考える	幼児が意欲的に遊びを進めるための環境の構成	4	幼児の思いを受けとめ、次の保育に活かす	3.2	4	多くの幼児が、「やってみよう」「やってみたい」と意欲的、積極的な行動が見られるようになった	3.2	3.2	・子どもたちの意見を保育の中に取り入れることで、自分の思いが実現する嬉しさや充実感を味わい、更に積極的な発言、行動に繋がっており、成果が現れている。	
		3	幼児の遊びや、興味関心に応じた遊具、用具、素材等を準備する		3	思っていることを発言する幼児が増えた				
		2	1日を振り返り、記録をとる		2	友だちの意見や話を進んで聞く様子が見られるようになった				
		1	幼児と一緒に遊び、よく観察する		1	何をしてよいかわからず不安な幼児の姿も見られる				
	自園の保育理念に沿った保育の展開	4	幼児の姿から実践を振り返り、教育指導要領と結びつけて指導計画を見直す	3	4	保育理念、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら、互いの保育の良い点や課題を分かち合い改善するようになった	3	3		・保育を10の姿や自園の保育理念と結び付けて考え、意識して行うようになった。 園内研修を通して他の職員と保育を共有することで、保育の幅が広がったと感じている職員が多く今後も継続して行う必要があると考える。
		3	振り返りの記録から、幼児の興味、関心を捉える		3	幼児の思いや意見を聞き、保育に取り入れるようになった				
		2	保育実践を自園の保育理念に当てはめ、結び付けていく		2	園内研修での学びを通して、自分の保育を見直し、振り返りを行うようになった				
		1	園内研修を行う		1	園内研修での学びを記録している				

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						教師の主な意見	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括 評価
幼児と保護者との信頼関係の構築	幼児一人ひとりと信頼関係を築く	4	好きな遊びに取り組んで、自己発揮できるような環境の構成を心掛ける	3.4	4	保育者や友だちに自分の思いを伝え合うようになった	3.3	3.3 B	<ul style="list-style-type: none"> ・どの職員も、子ども一人ひとりとスキンシップやコミュニケーションをとることを心がけており、その姿勢が安心感をもたらし、保育者との信頼関係を築くことができている。
		3	幼児との関わりを振り返り、幼児の思いに気づいたり記録したりする		3	多くの幼児が安心感の中、園生活を楽しむようになった			
		2	幼児が安心して過ごせるように保育室の環境を整える		2	家での出来事や、経験したことなどを話しかけてくれることが多くなった			
		1	幼児の話に耳を傾ける		1	不安な幼児の姿も見られる			
	保護者との信頼関係を築く	4	園での様子を連絡帳や電話、送迎の際に伝え、心配されている保護者には特に丁寧な対応を心がける	4	4	職員間で連携を取り、気づいたことを伝え合う情報交換を行うことが増えた	3.3	3.7 A	
		3	園に対する要望、クレームなどは園長に報告、相談し、対処する		3	自分のクラスだけでなく、他のクラスの幼児にも目を向け、声を掛けるようになった			
		2	園で怪我をした時は、保護者に直接状況説明を行う		2	幼児の園での様子を、連絡帳や電話などでわかりやすく伝えるようになった			
		1	幼児が欠席した場合は、家庭に電話を入れ欠席理由を確認し、様子を伺う		1	連絡アプリを導入したことで、二重に確認を行い欠席や預かり保育の伝達ミスが減少した			

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						教師の主な意見	
		基 準	取組指標	取組 結果	基 準	成果指標	成果 結果		総括 評価
幼児が健康を意識し、安心して生活できる保育の展開	安全点検 や教職員、 幼児の安全 対応力を 高める取 り組 み	4	降車時の人数など、確認作業を確実に 行う	3.7	4	車内での幼児の様子、体調などに異常が ないかを配る	3.7	3.7 A	<ul style="list-style-type: none"> ・通園バスに関しては、連絡アプリが定着したことで確認作業が統一化され、乗せ間違いや連絡ミスなどが減少した。 ・乗車人数などを確認すると同時に車内での子どもたちの様子も注意し、気にかけるようになった。
		3	車内での異常がないか、幼児の行動、 体調を気にかけて見守る		3	クラスの出欠状況、預かり保育の有無 などのチェックを行い、連絡もれがな くなった			
		2	職員間の連携を行い、幼児の安全に 対する意識を高める		2	通園バスを降りる際の人数確認を確 実に 行う			
		1	通園バスの乗降時マニュアルを確 認する		1	通園バスの乗降者名、人数を確認し て乗 車する			
	感染予防 のための 健康習慣 を身につ ける指 導の 工夫	4	自分の体の不調や変化に気づき、幼 児自身が担任に伝えられるように 働きかけ指導する	3.1	4	健康状態に気をつけ、体調が悪い時 は言葉 で伝えることができる	2.8	3 B	
		3	感染予防のため環境を見直し、職員 間で共通理解する		3	コロナウイルスなどの感染予防に関 心をも ち、マスクの着用や食事中のおしゃべ りを 控えるなど気をつけて行動するよう にな った			
		2	幼児がわかりやすい手洗いの方法 を表示する		2	進んで手洗い、うがい、消毒を行 うよ うになった			
		1	戸外から室内に入る際や、食前食 後 など必要な時に手洗い、消毒の 声か けをし、習慣づくように促す		1	声かけにより、手洗い、うがい、 消毒 に気をつけるようになった			

◎総合的な評価結果と今後の課題

- ・今年度は、「子どもたちの主体性を伸ばす保育を考える」を目標におき取り組んできたが、園内研修を行うことで、多くの職員がお互いの保育を共有することができ、保育の幅が広がったと感じる結果となった。また、子どもたちが意欲的に遊びや活動に取り組む保育を進めるにあたり、保育者が子どもたちの様子をよく見て、子どもたちの思いを汲み取り、つぶやきに耳を傾けるようになったことが、子どもたちの積極的な行動へと繋がっているのではないか。同時に、日々の振り返りが大切で、記録に残すことが、子どもたちの姿の振り返りに繋がり、更に子どもの興味に沿った保育を行うことに繋がっている。今後も記録を継続してとっていき、有効な記録の取り方と活用の仕方が課題である
- ・「子ども、保護者との信頼関係を築く」の項目については、連絡帳や電話で園での様子を伝えるなどの対応を心がけてはいるが、心配や不安を抱えている保護者に対して、対応が遅れた、適切なアドバイスができなかったなど、十分な対応ができていない職員がいた点に反省が残る。報告、相談を含めた職員の指導を課題とする。
- ・通園バスの置き去り事件が問題となり、特に気を配った1年であった。降車後の確認は、二重チェックで行っているが、慣れてくると危機感が薄れてくるため、人数の把握など確認作業を怠らないように、気を引き締めて業務にあたるよう年度初めに徹底する。

◎学校関係者評価委員による評価及び意見

園に行く機会に、子どもたちが生き生きと園生活を送っている様子を見ることができました。

先生たちと子どもたちが、対話をしながら保育を進めていることも参観日などの保育室の姿からも伝わりました。

教師間での学び合いを今後も続けていってほしいです。

学校関係者評価委員

委員会実施日

令和5年3月25日